

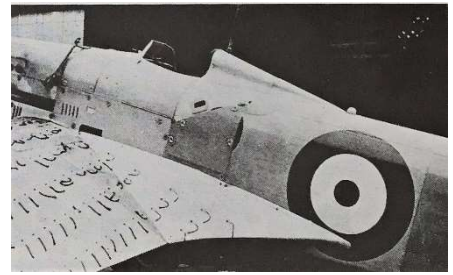
ワケ カタチには理由がある(17)

～スーパーマリン Type 224 試作戦闘機



実験的に付けられた巨大なフェアリング

〔出典：「Spitfire the History」Key publishing〕



本機は、1934年に試作された、英国スーパーマリン社の試作戦闘機です。設計者はレジナルド・ミッチェル(Reginald Joseph Mitchell)。後に、英国空軍の名機、スピットファイアを設計するデザイナーです。ロングスパンの主翼と、折れ曲がり部の下に綺麗に成型された主脚用スパッドを取り付けた、美しい形状の飛行機でした。しかしながら、「ネズ爺&ハテナンの特許探偵団 vol.33」で取り上げたように、逆ガル翼が災いし、結果として英国空軍の正式戦闘機として採用はなりませんでした。逆ガル翼は大迎角を取った際に気流を大きく乱すために、一筋縄ではこの問題を解決することはできませんでした。主翼付根にフェアリングを設けてるなど、悪戦苦闘する写真が残されています。この失敗が後のスピットファイアを生んだと考えれば、無駄ではありませんでした。

【模型について】

英国のリアプレーン(Rear Plane)製 1/72 のバキュームフォームキットです。プラスチック板をレリーフ状にプレスして胴体や主翼が成型される、この方式のキットは、1970年代から80年代にかけて作られました。完成させるためには根気を必要とし、今ではすっかり廃れてしまいました。もっとも、このようなマイナーな機体が数多くキット化されたため、マイナー機ファンには歓迎されました。

(中川裕幸 2021年3月)